

微生物学Ⅱ

Microbiology Ⅱ

薬：C2-08221MY

基礎科目 2年／後期 1.5単位 必修科目

科目責任者 杉田 隆(微生物学研究室)

■教育目的

感染症の病態、予防法および治療法を理解し考えられるようになるために、病原微生物学各論として主な感染症の原因となる細菌、真菌、ウイルスおよび原虫・蠕虫の特徴についての基礎を修得する。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、SD-②】

■学習到達目標

1. 代表的な病原細菌とそれが引き起こす感染症を説明できる。(知識)
2. 代表的な病原ウイルスとそれが引き起こす感染症を説明できる。(知識)
3. 代表的な病原真菌とそれが引き起こす感染症を説明できる。(知識)
4. 代表的な病原原虫・蠕虫とそれが引き起こす感染症を説明できる。(知識)

■準備学習（予習・復習）

予習：感染症とその原因微生物について、日頃から関心をもち予備知識を得ることを心がける。次回講義内容に該当する教科書ページに目を通しておく(20分以上)。

復習：教科書、講義資料などを見直して知識を整理し理解を深める(30分以上)。

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1	細菌感染症各論 1	グラム陰性細菌による感染症(大腸菌など)	C-6-3 D-2-15
2	細菌感染症各論 2	グラム陰性細菌による感染症(緑膿菌など)	C-6-3 D-2-15
3	細菌感染症各論 3	グラム陽性細菌による感染症(ブドウ球菌など)	C-6-3 D-2-15
4	細菌感染症各論 4	グラム陽性細菌による感染症(レンサ球菌など)	C-6-3 D-2-15
5	細菌感染症各論 5	嫌気性菌・腸内細菌叢による感染症(バクテロイデスなど)	C-6-3 D-2-15
6	細菌感染症各論 6	抗酸菌等による感染症(結核菌など)	C-6-3 D-2-15
7	細菌感染症各論 7	非定型等による感染症(マイコプラズマなど)	C-6-3 D-2-15
8	耐性菌・感染対策	耐性機構や AMR など	C-6-3 D-2-15
9	原虫・蠕虫感染症各論	原虫や蠕虫による感染症	C-6-3 D-2-15
10	真菌感染症各論	アスペルギルスやカンジダなどによる感染症	C-6-3 D-2-15
11	ウイルス感染症各論 1	DNA ウイルスによる感染症(ヘルペスウイルス科等)	C-6-3 D-2-15
12	ウイルス感染症各論 2	RNA ウイルスによる感染症(レトロウイルス科等)	C-6-3 D-2-15
13	ウイルス感染症各論 3	RNA ウイルスによる感染症(オルソミクソウイルス科等)	C-6-3 D-2-15
14	ウイルス感染症各論 4	RNA ウイルスによる感染症(コロナウイルス科等)	C-6-3 D-2-15
15	まとめ	第 1-14 回の講義内容を総合的に復習する	C-6-3 D-2-15

■ 授業分担者

A・B・C 組 森田 雄二(No.1,2,5,8,15)、松本 靖彦(No.3,4,6,7,9,15)、杉田 隆(No.10～15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

期末試験の成績 (100%) で評価する。

■ 教科書

『第 7 版 薬科微生物学』 杉田隆、安齊洋次郎 編（丸善出版）

■ 参考書

『戸田新細菌学 改訂第 34 版』 吉田 眞一・柳 雄介・吉開 泰信 編（南山堂）